

人・地域をつなぐ

-神戸市における孤独・孤立の問題への取組-

神戸市

孤独・孤立の問題が生じる背景



- 核家族化等による「社会環境・生活環境の変化」
- 人と関わる気持ちの萎縮による「人間関係への意識の変化」
- 家族の問題は家族でという観念や羞恥心による「相談・支援に対する意識の変化」
- 「問題の複合、複雑化により解決が困難となっていること」

など

孤独・孤立の状態にある方



神戸市としては、以下のような方を支援の対象としています。

支援を受けることにより解決・改善しうる問題を
抱えているものの、

- ①頼れる人がいない
- ②問題を解決しようとする気持ちがない
- ③そもそも問題として認識していない等から
頼ろうとしていない

などにより支援につながっていない方

現在の孤独・孤立に対する取組例



- ひきこもり支援 (ひきこもり支援室を中心とした情報共有体制を構築)
- こども・若者ケアラー支援 (相談・支援窓口を設置し、必要な支援へのつなぎ)
- こどもの居場所づくり (市内163の全小学校区での実施を目指す)
- シニア世代のつどいの場づくり (市内の各地域約1,800か所で活動中)
- 地域福祉ネットワークカーによる地域支援
- NPOによる地域支援

等の取組を行ってきています。

こどもの居場所づくり



地域の中で子どもたちの育ちを支え見守る仕組みを広げることを目指し、学習支援や食事提供を行う「こどもの居場所」づくりを推進。

※貧困世帯などに限らず広く地域の子どもたちを対象。

(目標) 市内全小学校区 (163校区) での実施を目指す。

令和3年8月現在、市内108か所 (70校区) で実施

(施策) 各区社協にコーディネーターを配置。

→ **居場所を実施したい人と居場所を応援したい人をつなぐ。**

孤独・孤立への取組を進めていく上での課題



それでもなお、

支援又はその糸口につながるような人とつながっていないために、

抱えている問題を解決できずにいたり、

悪化してしまったりする方がいます。

孤独・孤立への取組の方向性



そうした方に対して、

- ①未然防止・予防・早期発見のための施策の充実
- ②民間団体による共助の仕組みのさらなる強化
- ③顕在化した問題に対応するための行政等の相談窓口の充実

に取り組んでいきたいと考えています。

人・地域をつなぐために



社会課題 の解決

市民の思い

- 支援してほしい
- 役に立ちたい

企業の思い

- ビジネスチャンスを見つけたい
- 社会に貢献したい
- 企業イメージを良くしたい

庁内

- 縦割り
- 慣習にとらわれ硬直的
- 政策が小粒でバラバラ
- 市民に届いていない

NPO等の思い

- 人材、資金を集めたい
- 活動を広げたい
- 知恵が欲しい

- ひとや組織を「つなぐ」
- 市民本位の政策に「つなぐ」